

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	香 月 欣 浩
2. 審査委員	主 査：(上越教育大学教授) 松 本 健 義 副主査：(岡山大学教授) 清 田 哲 男 委 員：(岡山大学教授) 早 川 倫 子 委 員：(岡山大学教授) 片 山 美 香 委 員：(岐阜大学准教授) 隼 瀬 大 輔
3. 論文題目	幼児造形活動において共主体関係を再構築する子どもと保育者の行為と気づきと 変容に関する研究
4. 審査結果の要旨	教科教育実践学専攻芸術系教育連合講座 香月 欣浩 から申請のあった学位論文について、 兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和7年2月26日（水） 18時～19時30分 場 所：オンラインで実施 1. 学位論文の構成と概要 <学位論文の構成> 序 章 研究の背景と研究の目的及び方法 第1章 共主体関係を再構築する子どもと保育者 第1節 現象学的アプローチ 第2節 関係性の中での子どもと保育者 第3節 主体と共主体 第4節 子ども主体の表現を導く保育者の関わり―二歳児と保育者の行為と気づきと変容― 第2章 保育者による造形活動を通じた共主体関係の再構築 第1節 保育者による新聞紙の造形遊びによる共主体関係の再構築過程の記述分析 第2節 活動後の幼稚園教諭へのグループインタビューによる共主体的経験の記述分析 第3章 子どもと保育者による造形活動を通じた共主体関係の再構築 第1節 新聞紙の造形活動における子どもと保育者の関わりの事例分析 第2節 子どもと保育者が共主体関係を再構築する場面事例の記述分析 第4章 保育者の「語り合い」による共主体関係の再構築 第1節 新聞紙造形活動のビデオカンファレンスと同学年保育者の語りの記述分析 第2節 新聞紙造形活動のビデオカンファレンスと全学年保育者の語りの記述分析

第5章 語り合いを重ねることによる保育者と研究者の気づきと変容

第1節 造形的活動ボディペインティングの実践と記述分析

第3節 ボディペインティング活動の保育者による振り返りと記述分析

第4節 保育者に対するボディペインティング活動へのインタビューと記述分析

第5節 保育者によるフォトカンファレンスとインタビュー

終章 結論と課題

<学位論文の概要>

第1章第1節から3節では、鯨岡峻「接面」「相互主体性」、浜田寿美男「三項関係」「相互主体性」の現象学的心理学における自他間の共生関係と対象形成について、また佐伯胖「発達のドーナッツ」における認知科学における「共感－育ち合う保育」の視点、無藤隆「共主体(コ・エイジェンシー)」の先行研究に基づき「共主体」概念を位置づけた。第4節では、造形活動において共主体関係を再構築する2歳児と保育者の行為と気づきと変容過程を、2歳児と保育者が一緒に絵の具でスタンプや手形押しをする過程で、行為を相互的關係へと互いに組み替え、共主体的な関係を成り立たせながら新しい出来事や遊びをつくりだす過程を相互行為分析により示した。以上の知見に基づき、第2章以下各章での、子どもと保育者、保育者と保育者、保育者と研究者とが、共主体関係を形成しながら行う造形活動とカンファレンスの実践と、その相互行為の関係と過程を事例分析する調査研究とを位置づけた。

第2章では21名の保育者を対象に新聞紙の造形遊びの実践過程の相互行為分析により、対象や他者との関係を組み替える行為の遂行とそれによる保育者の気づきと変容を示した。活動後、1年、7年、13年の保育経験の異なる3名の保育者と、造形活動の感想、気づき、変容を語り合う対話型インタビューを実施した。保育者たちは造形的活動で主任保育者Aが自分を開き新しい自分をつくった過程他の保育者らが驚きを感じ、1つの世界を全員でつくったことを喜び合う共主体関係の形成が見られた。2歳児と保育者事例と同様のつくる過程で遊びや関係性や出来事をつくり続ける姿が現れた。

第3章では、子どもと保育者による造形的活動と対話によるカンファレンスの参与的で相互主体的な実践を、B園年長児絵具の活動、C園とD園での新聞紙の造形活動で実施した。子どもと保育者は、B園年長児では「絵具のつけ方を試す活動」から「手足に絵具をつけていい活動」へ、C園では「新聞紙の造形」から新聞紙とビニールテープで幼児A1がつくった「スイカのカバン」の共感的語り合いへ、D園では「新聞紙の造形」から「機関車遊び」へ、園児も保育者もそれぞれ見たこともしたことがない出来事や世界をつくり、その世界を共に楽しみ生きる共主体的関係が現れた。

第4章では、第3章事例のビデオ、画像、トランスクリプトをもとに、C園では同学年保育者によるビデオカンファレンスとインタビューを行い、D園では全保育者によるビデオカンファレンスを実践した。ビデオカンファレンスでは、同じ子どもや保育者の行為を取り上げても、感じ方や捉え方が保育者により異なることが「正解はない」と共有され、遠慮なく語り合うことが全参加者に多くの「気づき」や喜びとなった。経験や見方の異なりを共主体的在り方として受け止め保育者間の実践的關係を再構築する姿が現れた。研究者と保育者が共に保育を計画して実践し、幼児と保育者の状況にあった造形的活動やカンファレンスを実行していく必要性が明らかになった。

第5章では、Eこども園主幹保育者から「作品の出来栄ではなく、心から子どもたちが造形活動を楽しむような造形活動をできないか」と相談を受け、研究者と保育者とで子どもの造形活動の広がりや深まりに焦点化した保育を協働で計画し、造形的活動とカンファレンスとインタビューを9回にわたり重ねて実践した。そのトランスクリプトと画像分析により、保育者と研究者の行為と気づきと変容を考察した。インタビューでは幼児と保育者と研究者の「語り合い」の中で、互いの保育や子どもの捉え方や関わり方、言葉かけなどを知ることにより保育の楽しさや目標に気づくことが示された。研究者も保育者と同じ立場で共に保育を振り返りながら活動や研修をつくることで、子どもや保育や研修に関する気づきを得ることができ、両者が活動の創造経験と気づき合いへの感謝と喜びを示す関係の変化が現れた。子どもや保育者との造形的活動による語りや対話を開くコミュニケーションの形成スキルの開拓という研究者自身の課題への気づきと変容が生まれた。

2. 審査経過

(1) 研究の目的と論文構成との整合性について

問題の所在，研究の目的，論文構成，研究方法に論理的整合性が確認された。

(2) 研究の独創性について

①幼児が保育者や友達と共に生きる生活の二人称的共同性により，生活を文化的実践世界へと生活の中で再構築する間主体的活動として幼児造形活動による保育を位置づけ，その基本概念，活動構造，実践構成を示し，実践過程の映像の質的分析により，幼児と保育者と研究者による生活世界の再構築過程を示した。幼児の活動と保育を生活世界の中で他者と共に新たな生活世界を創造する実践過程として位置づけた点が，乳幼児保育実践の特性において本質的であり独創的である。

②子ども，保育者，研究者の3者により生活の中で生起し経験される二人称的共同性により文化的実践世界へ向かう関係性に基づく造形活動，ビデオカンファレンス，対話の実践を開発実践し，その過程を重ねる実践と記述分析により，過程と世界とが相互的に変容する実践的關係を示した。

③生活の中で造形的な遊びを通して生活を社会的文化的実践世界として生成し，それまでの生活を子ども自身が保育者と共に再構築する過程が，保育実践とその実践研究の対象領域であること「共主体の再構築」の概念と在り方より示した。

(3) 今後の発展性について

親密で共感的な他者とともに，生活の中で生活をつくることにより，生活と自分とを「行為一気づき一変容」の一体的な行為の経験として新たにつくる保育は，その視座と関係と過程において，多様な生活場面で，個と社会の創造的で関係的な相互変容と変容を共に生きる生活の実践的基盤の形成に貢献することが期待される。本論文が対象とした共主体が生活の中に文化的実践世界を創造することで生活と自分とを創造的につくり変える乳幼児期の造形活動の在り方は，小学校での生活科と総合的な学習及び各教科での探究的な学びと連続し，中学校や高等学校での総合的な学習や総合探究と接続して，自分のよさを活かして社会の課題解決へ向かう協働的な主体性の基軸や基盤として機能することが期待される。

(4) 学校教育の実践への貢献について

①子どもの状況，活動，育ちと保育内容及び方法を，子ども，保育者，研究者が，異なる文脈，経験，立場よりそれぞれ個別にとらえ保育実践を行う在り方から，子どもと保育者と研究者とが生活世界を共に生きる共同性をつくることで，文化的実践世界へ向かう実践的關係をつくること。生活の中に新たな生活世界をつくろうとそこへ向かう過程の経験を可能とし，子どもと保育者，保育者と保育者，保育者と研究者とが，子どもの行為と方法が照らし出すその子の状況や文脈と生きようとする生活への志向性に基づき，子どもと共に生活と保育とを一体的に再構築することが，保育の実践，研修，創造において本質的で専門的な在り方であることを示した。

②その際，幼児造形活動，保育場面のビデオや画像のカンファレンス，インタビュー，語り合いを重ねる過程は，幼児，保育者，研究者それぞれが文化的実践的世界を新たに生きようとする行為とその関係を相互に経験可能とし，それにより経験年数や個々の特性を超えた理解と行為と共感と省察をもたらすことを示した。

3. 審査結果

以上により，本審査委員会は 香月欣浩 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し，全員一致で合格と判定した。